

⑤ 勞 働 費

事業カルテ (元年度決算)

経済観光課

05-01-01-423

就業労働相談事業

◇事業の位置づけ等

事務の種類	自治事務	基礎となる法令	—			
第五次総合計画 基本計画体系	目指すまちの姿	働き、学び、遊び みんなが活気と魅力を感じるまち				
	政策	D1	人々が集い、働く、活気と魅力あふれるまちづくり			
	施策	1	産業振興による地域経済の活性化の推進			
	関連する施策	—	—	—	—	—
関連する個別計画	—					
関連する報告書など	—					
事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など	昭和55年に公共職業安定所との共同事業として、高齢者職業相談室をグリーンロード永山に設置し、短時間労働の斡旋を行った。平成15年に相談室の名称を「いきいきワークTAMA」とし、年齢制限を廃止した。平成17年には、ハローワーク府中と多摩市が共同運営する地域職業相談室として、「永山ワークプラザ」をベルブ永山内に開設した。					

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成13年度以前

事業の目的、 令和元年度の目標	市民の就労機会の拡大を目的に、ハローワーク府中のランチの位置付けで、市内で就職のあつせん等を行う場として永山ワークプラザの運営を行う。令和元年度は、昨年度に引き続きワークプラザの周知を行い、利用者数及び就職者数の増加を目指す。また、国や都、地域企業と連携して面接会等を実施することで、直接的な就労機会を提供する。
予算の執行方法	永山ワークプラザの運営に係る光熱水費、電話料、清掃業務委託料及び施設借上料（人件費等その他運営に係る経費は国が負担する） 就労支援セミナー等の実施に係る消耗品費
事業の成果	求職者と企業の求める人材のマッチングを行うことで、雇用の確保と、市民に対し身近な就労機会を提供した。また、ポケット労働法を市役所ロビー等に設置したことで、市民が手に取りやすくなり、労働問題や労働法への理解を深めることができた。就労事務の情報交換を行い庁内が横断的に連携することを目的として、就労担当庁内連絡会議を開催した。

◇事業にかかる費用

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
決算額(単位:千円)	11,110 千円	6,071 千円	6,108 千円	6,147 千円	6,263 千円	
事業にかかる実コスト	16,178 千円	10,151 千円	10,074 千円	9,087 千円	11,412 千円	
内 訳	直接経費					
	国庫支出金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	都支出金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	地方債	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	一般財源	11,110 千円	6,071 千円	6,108 千円	6,147 千円	6,263 千円
間接経費						
職員人件費	4,683 千円	3,701 千円	3,966 千円	2,940 千円	5,149 千円	
《従事人員数》	0.50 人	0.40 人	0.45 人	0.35 人	0.60 人	
その他の人件費	385 千円	379 千円	0 千円	0 千円	0 千円	

◇成果指標

指標の種類	指標について		平成30年度	令和元年度	令和2年度
活動指標 (アウトプット)	来所者数	目標	21,000	20,000	20,000
		結果	16,910	14,939	—
成果指標 (アウトカム)	就職件数	目標	1,070	1,050	1,050
		結果	891	784	—

特記事項

令和元年度までは雇用情勢は改善が続いており、求職者が減少している。そのことに連動して就職件数も減少することから、成果指標を前年の目標を下回るものとした。令和2年度の目標は求人動向が読めないため、令和元年度と同じとした。

◇自己点検

の 成 果 推 移 指 標	今後の見通し		方 今 向 後 の 性 の	今後の課題や方向性に関するコメント
	ニ 量 的	財 一 源 般		
N	N	B	イ	働くことを考えている人が就職に結びつきやすくなるため、永山ワークプラザの存在を多くの市民に知ってもらえるよう、引き続きPR強化に努めていく必要がある。また、障がい者や生活困窮者など働く意欲がありながら就職に困難を抱えている方への就労支援の在り方について、検討が必要となっている。新型コロナウイルス感染症との共存期、収束後の就労支援については、国や都と連携して強化する必要がある。

<就業労働相談事業>

◇執行状況及び成果等

1 永山ワークプラザ設置関連費

(単位：円)

年度	需用費 (消耗品・ 修繕料)	需用費 (光熱水費)	役務費 (電話料)	清掃委託料	賃貸料	合計
27	66,560	253,751	46,548	324,000	5,418,960	6,109,819
28	78,151	204,440	45,772	324,000	5,418,960	6,071,323
29	77,819	232,951	45,939	339,120	5,411,964	6,107,793
30	75,090	266,452	46,311	339,120	5,419,992	6,146,965
元	77,358	261,455	46,657	357,520	5,519,760	6,262,750

2 就業労働相談事業実績

年度	求職来所者数(人)			処理状況					
				紹介件数(人)			採用件数(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
27	11,787	10,306	22,093	4,086	3,557	7,643	549	568	1,117
28	11,471	10,771	22,242	3,747	3,369	7,116	511	577	1,088
29	9,402	9,199	18,601	3,197	3,337	6,534	450	597	1,047
30	8,637	8,273	16,910	2,953	2,889	5,842	358	533	891
元	7,610	7,329	14,939	2,505	2,676	5,181	329	455	784

3 ポケット労働法配布実績

- ・ 配布期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日
- ・ 配布冊数 883冊
- ・ 配布場所 市役所1階ロビー、2階経済観光課

4 就労ガイドブック実績

- ・ 配布期間 令和2年2月17日～令和2年3月31日
- ・ 配布冊数 273冊
- ・ 配布場所 市役所1階ロビー、2階経済観光課、子育て支援課、障害福祉課、福祉総務課

事業カルテ (元年度決算)

経済観光課

05-01-01-424

勤労者福祉対策事業

◇事業の位置づけ等

事務の種類	自治事務	基礎となる法令	—			
第五次総合計画 基本計画体系	目指すまちの姿	働き、学び、遊び みんなが活気と魅力を感じるまち				
	政策	D1	人々が集い、働く、活気と魅力あふれるまちづくり			
	施策	1	産業振興による地域経済の活性化の推進			
	関連する施策	—	—	—	—	—
関連する個別計画	—					
関連する報告書など	—					
事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など	昭和59年度の多摩市勤労者市民共済会設立とともに、市は共済会に対する補助事業を開始した。平成14年4月に「公益法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律」が施行されたことにより、市職員が兼務していた共済会事務局長は、市民共済会が担うこととなった。平成26年度からは、それまで一律で支払っていた補助金を、会員数に応じた補助額となるよう制度の見直しを行った。平成29年度には、市から貸付けを行っていた生活資金あっせん事業のための預託金について、共済会の自己資金で対応できるようになったため、貸付け制度を廃止した。					

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成13年度以前

事業の目的、 令和元年度の目標	勤労者の福祉の増進、雇用の安定、中小企業の育成・発展を図ることを目的に、多摩市勤労者市民共済会にその運営費の一部を補助することで、安定的にサービスを提供できるようにする。
予算の執行方法	多摩市勤労者市民共済会へ事業費補助金を交付する。
事業の成果	市内中小規模事業所で働く従業員に対し、福利厚生事業が安定的に提供された。

◇事業にかかる費用

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
決算額(単位:千円)	15,375 千円	15,375 千円	12,375 千円	12,375 千円	12,675 千円
事業にかかる実コスト	16,440 千円	17,226 千円	14,138 千円	14,055 千円	14,391 千円
内 訳	直接経費				
	国庫支出金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	都支出金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	地方債	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	その他特定財源	3,000 千円	3,000 千円	0 千円	0 千円
	一般財源	12,375 千円	12,375 千円	12,375 千円	12,375 千円
間接経費					
職員人件費	937 千円	1,851 千円	1,763 千円	1,680 千円	
《従事人員数》	0.10 人	0.20 人	0.20 人	0.20 人	
その他の人件費	128 千円	0 千円	0 千円	0 千円	

◇成果指標

指標の種類	指標について		平成30年度	令和元年度	令和2年度
活動指標 (アウトプット)	多摩市勤労者市民共済会加入促進協件数	目標	—	85件	100件
		結果	—	178件	—
成果指標 (アウトカム)	多摩市勤労者市民共済会会員数(年度末日時点)	目標	1,675人	1,740人	1,740人
		結果	1,736人	1,704人	—

特記事項

活動指標は令和元年度から新たに設定したため、平成30年度以前は記載していない。

◇自己点検

の成果 推移 指標	今後の見通し		方今 向後 性の	今後の課題や方向性に関するコメント
	二 量 的	財 一 源 般		
B	B	B	イ	各事業所の経営安定と事業継続を図るうえで、人材確保は大きな課題である。このうち従業員に対する福利厚生事業は重要な要素となることから、市内中小規模事業所で働く従業員の福祉の向上を図るため、多摩市勤労者市民共済会に対する補助を継続することで、安定したサービスの提供を維持する。今後、より自立した会の運営ができるよう会員の加入促進等の協力と組織運営に対する支援を行う。

<勤労者福祉対策事業>

◇執行状況及び成果等

1 多摩市勤労者市民共済会への補助金及び貸付金

年度	事業所数	会員数	補助金額（円）	貸付金（円）
27	373	1,629	12,375,000	3,000,000
28	376	1,656	12,375,000	3,000,000
29	388	1,731	12,375,000	0
30	384	1,700	12,375,000	0
元	373	1,704	12,675,000	0

※ 各年度末日時点